

道徳復興

# ヤマト平民会議への想ひ

<http://www.jomaca.join-us.jp/omoi.pdf>

令和五年六月十五日 山田 学まなぶ ©

[arigatou@image.ocn.ne.jp](mailto:arigatou@image.ocn.ne.jp)

※ヤマトの声の深みを求め、旧かなづかひを、  
させていただきます。

## 〈聖なる感謝〉

毎日の、四六時中瞬間瞬間、〈聖なる感謝〉にて、生きる。  
世界に生かされて、生きる。

〈聖なる感謝〉といふ土台があればこそ、〈眞智〉（健康平和  
な、現実の認識）にて〈聖愛〉（健康平和な、生活協力）が、  
可能。

〈邪智〉にて〈俗争ぞくざう〉の今の地球を、しだいに、しだいに、  
浄化させていただけける…。

人間ひとりひよりは、〈一体としての人間社会〉のうちのひ  
どりと、です。

ひとりひよりは、自身の生体の各部分の〈協因〉を、回復し、  
保持しませんか。そして、全地球人がおたがひに、〈安心の呼  
吸〉を、追求しあひませんか。

異民族どうしが、また、富民と貧民が、怒りや、不平不満や、  
不安心、それらをもちあつてきた、この数千年間。しだいに、  
しだいに、卒業しあつてまゐりませう。

からだどこころの健康。どころと社会の平和。これらを、地  
球に増やしませんか。

## 受け技わざ

毎日の、四六時中瞬間瞬間にて、世界は、ありがたいか、ありがたくないか、では無い。あへてすべてを、ありがたく受け取る。武道の受け技のやう、〈聖なる感謝〉は、こころの受け技です。〈聖なる感謝〉により、ひとりひとり、自身の生体の各部分の〈協同〉が、実現しやすい。人びとと、〈安心の呼吸〉を、追求しあひやすい。人間社会の、この数千年間の〈過渡期〉  
|| 前史、これを超え、進化しあひやすい。人間社会の健康平和化に、奉仕しあひやすい。資産増殖のみに、とらはれた、一部の方がたを、超えてまゐりませう。

## 道徳復興

人間社会は、三重の構造です。  
人間社会は、まづ、生産の社会が、あります。労働による生産の社会、です。

その生産の社会のうちに、認識表現の社会が、あります。認識による表現の社会、です。

その認識表現の社会のうちに、規範の社会が、あります。規範による調整の社会、です。

規範による調整にて、〈聖なる感謝〉する。

認識による表現にて、〈眞智〉（健康平和な、現実の認識）する。

労働による生産にて、〈聖愛〉（健康平和な、生活協力）する。  
社会の三重にて、〈聖なる感謝〉を土台とし、〈眞智〉にて〈聖愛〉する。

この、今の地球にてまれなる、道徳復興をしたい。

これこそ、ヤマト平民会議への想ひです。

## 超近代

日本は百五十年前、西欧に追いつけ追ひ超せと、文明開化を、もどめた。その西欧の今、規範・学問・祈り・芸術・養生として、善・真・信・美・健としては、むしろ〈文明退化〉してゐませんか。

一万年以上の〈平和な縄文智の記憶〉もある、われら日本民衆、ヤマト平民の、出番でないですか。とくに、子どもを産み育てる、本能として賢い、女性において。

この五百年の、西欧民族主導の近代から、今度は、日本民族主導の超近代へ。

迷へるダヴォス会議ではなく、ヤマト平民会議こそを、興したい。純情な日本民族の、新時代の誇りです。

## 本史

世界は、体内と体外と認識したい、です。

世界は、意志の三重と、必然の三重。

道徳の意志と、経営の意志と、公会発達の意志。

認識理<sup>り</sup>の必然と、生理の必然と、物理の必然。

必然の三重に、〈聖なる感謝〉する。〈真智〉にて〈聖愛〉し、人間社会の本史として、意志の三重する。

本史の起点が、ヤマト平民会議なのだ。

全人民にある、健康平和欲求。それを、理性的に、解放させあつてゆきたい。

実は、地球人、宇宙において、後進生物であるに、すぎません。UFOや異星人を迎へるに、支障となるのが、実は、アイシシユタイシらの学問。〈次の学問〉を、学びあひませう。

## 生活修正

人間の生活にて、苦しみや悩みは、必然なのです。

必然の、苦しみや悩みから、逃げさせる教へも、多いが、それでは、人間の進化が、完成せぬ。必然の、苦しみや悩みこそ、導きの系。〈聖なる感謝〉しつつ、体内の〈快〉を、求む。〈無〉<sup>む</sup> 不快が無いを、求む。〈聖なる感謝〉を土台とし〈眞智〉にて〈聖愛〉する。ヤマト平民会議への想ひを、理解でき、参画できる方は、すでに、救はれてゐる。

生活を、六面から、考へます。ひとりひとりが、自身の体内に、注意しあひつつ、六面から、考へる。姿勢動作は、これによいか。呼吸は、これによいか。食事と排泄は、これによいか。人間関係、とくに異性関係は、これによいか。精神は、これでよいか。生活環境は、これでよいか。体内の〈快〉を、求む。〈無〉 不快が無いを、求む。かう求めつづける人が、まだまだ少い、今は、世間の言説に、でたらめも多い。世間の言説を、信ぜず、疑はず、自身にて、是非を確認する。冥想生活。求道<sup>ぐだう</sup>実行。

苦しみや悩みこそを、導きの系とし、生活を、六面から、修正しつづける。その時なりに、愉しみや悟りにも、接近する。個人の生活修正から、自然に、社会改善に向ふことも、ある。苦しみや悩みと、愉しみや悟りを、よりかへすのが、自然な人生。

ひとりひとは、自身の生体の各部分の〈協同〉を、回復し、保持しませんか。そして、全地球人がおたがひに、〈安心の呼吸〉を、追求しあひませんか。

冥想生活からこそ、〈諸個人の自立と協同〉は、ある。自身の体内によく注意するからこそ、他者の体内についても、予感できる。やがては、やがては、〈諸民族の自立と協同〉へも、

旅立てる。

ありうる地球公会へ、道德協会運営は、体内注意の推進に、ほんね表明の仲介を、調和させます。

### 〈合掌〉

人間の生理構造として、〈聖なる感謝〉する、姿勢動作は、〈合掌〉です。ここに言ふ〈合掌〉は、ただの合掌でなく、なるべく鉛直に立ち、背骨を伸し、肚はらに力がこもる（||陽）やうにし、眉間がさえる（||陰）やうに、なるべく肘を水平に張り、合掌する。立ち姿勢が基本形であり、正座姿勢や、仰臥姿勢などの変化形もある。

人間の直立二足歩行は、自覚的な、姿勢動作と呼吸の調整がないと、常態にならない。直立二足歩行と、自覚認識と、音声言語や文字言語といふ、人間の生理的進化ないし認識発達において、臓腑と手足の体液分布を、病態ないし半病態から、常態へ、自覚的に、修正していくべし。また、記憶と注意と発想に良い、血液の栄養状態を、追求すべし。なほ、健康平和生活の根本である、食事は、他生物の生命を、自分自身の生命に、供そなへ養やしなふこととです。人間ひとりひとりの自分自身は、他生物にひとり、供養相手くやうです。

常に変化してゐる、世界（体内と体外と認識じたい）に、〈聖なる感謝〉し、調和して安定することを、くりかへす。

ヤマト平民会議といふ、人間社会の本史の起点から、人間社会が健康平和化してゆく必然を、理性的に、待たせていただきます。